

平成五年度

全国曹洞宗青年会総会

第十期新執行部発足



参加・集約

そして展開へ



発行所
全国曹洞宗青年会
〒105東京都港区芝2-5-2
曹洞宗事務行内
発行責任者 吉川俊雄
TEL.03-3454-5411

去る五月十一日、曹洞宗事務行に於いて、平成五年度全国曹洞宗青年会総会が全国より百数十名の会員の出席のうちに開催された。

当日総会に先立ち午前九時より事務局会・理事会・評議員会が行われた。理事会では、平成四年度事業報告・会計報告が事務局より行われ、質疑応答の後承認された。また、今年度は第九期執行部任期満了に伴い、理事会に引き続き、新執行部選出の選考委員会が持たれた。過去五回にわたった審議の結果選出された各役員予定者が紹介され、全員の承認を得、理事会決定事項とともに評議員会へ送られた。研修道場にて行われた評議員会は、前年度並びに今年度に関する各議案ともスムーズに審議され、総会へと移った。

つづいて事務局より理事会・評議員会での議事経過内容が説明され、平成四年度事業・収支決算並びに平成五年度事業計画・収支予算が審議の上可決された。また、選考委員長より新会長として吉川俊雄師(山口)副会長として朝日耕道師(三重)、桜井朝教師(長野)、清水昭信師(愛媛)の名前が掲げられ、他役員とともに承認決定された。

◆禅の集い中央研修会
講師にキャシー中島女史を迎えて行われた。

全曹の「花まつりキャンペーン」「仏前結婚のすすめ」等の取組みについて、「男性だけの考えではなく、女性の意見を聞く事も大事である。こういうキャンペーンは女性の心を掴まなければ」とアドバイス、「先祖様の前で愛を誓うのは素晴らしい事だ」と述べられた。また「P. K. O」などの時事にも触れ、女史の快活なキャラクターとユーモア溢れる話術と相まって、女性の視点からの切り口に、聞き入る会員諸兄の頭は幾度もうなづいていた。

破草鞋

「湖水のスケは枯れはて、鳥は歌わぬ」
レイチエル・カーソンの「沈黙の春」の扉に掲げられたキーツの詩の一節である。一九六二年、この著作によって彼女は、農業、殺虫剤などの化学物質による環境汚染の重大さを世界に訴えた。日本が高度成長期に入ろうとする頃、多くの人々はまだ環境などと言葉にも出さなかつた時代である。

彼女が警鐘を打鳴らしてから三十年以上たつ現在、「地球にやさしい」「緑と清流」とか「エコロジー」などと言葉は溢れているが、今の状況は当時と較べてみて、好転したと言えるだろうか？

スローガンを声高に言うよりも、彼女は「(センス・オブ・ワンダー)自然の神秘や不思議さに目を見張る感性」を持ち「私たちが住んでいるこの世界の喜び、感激を再発見し、感動を分かち合う」心で、五感を通して共に自然を感じ取っていくことが重要だといつた。

「春は花夏ほととぎす秋は月
冬雪さえてすすしかりけり」
道元禅師のお歌が思い浮かぶ。

テクノロジーと経済優先の営為がもたらした環境問題、それを前にして今、我々自身、人人の心の有りようを問うべきではないだろうか。

参加型集団としての全曹青へ

総会所信表明より

第十期全国曹洞宗青年会会長

吉川 俊雄



今般、全国曹洞宗青年会第九期任期満了に伴い、不肖私が第十期会長という大命を拜命することに相成りました。

奇しくも第十期という二十年に及ぶ成人の節目を迎えるわけです。これは、先人の只管な求道の賜物であります。甚だ非力な身であります。不借身命法の為に成す思いで大役を努めさせて戴く所存です。何卒、各位の御支援を切に願います。

流れを一つに

参加型集団への展開を!

さて、全曹青の底流は、各地曹青の地道な大衆教化の力の中にあ

り、時に議論の末に団体加入の方向性を歩んだ道は、その流れをさらに全曹青の名のもとに合流しようとした試みであったのです。その試みも着々と進み大半の単位曹青の加入が実現になってきた今、その百千の支流の源に思いを致して見るのです。

当初より、大衆教化の接点を求めて、が、全曹青のスローガンでありました。その接点は、この支流にこそ存在しているのではないのでしょうか。全曹青が組織として一層強固になりつつある現在、この基盤のもとに、支流である個々が具体的に参加する、参加型集団に展開を進めていく必要性を痛感するのです。

〈溜まり場〉

個々の声の集約の場として

江戸の幕末に存在した若者衆は、個々の主体的かつ自立的な参加型共同体が、一つのその共同体をも越えて広い交際性を持っていったのです。そして、若者衆はあらゆる人々を抱え込む社会の

溜まり場、的な存在でもありませんでした。

今、全曹青は強いて言えばそのような許容性のある、溜まり場、的な存在として位置し、また個々の意見や経験を、そして夢を伝えて行く河川としての役割りがあるのではないのでしょうか。

団体加入推進と平行した個人の賛同を受ける組織づくりを試みたいのです。それが為には、全曹青のスタッフ一同が、参加される個々の会員の御意見を統合できる体制を一層強く持たなければならぬのです。

前期の事業である、花まつりキャンペーン、を継続して行く中で、降誕会から個々の存在・生き方を尊ぶ社会運動へと浸透させて行き、地道でまた広汎な活動に展開して行きたいと考えます。

昨今の国内外における社会的諸問題や地球規模での問題は、全国規模で宗教者全体の対応を迫られております。

会員各位のご批判や激励をお願い申し上げます。

第十期本部役員事務局

会長

吉川 俊雄 (山口)

副会長

朝日 耕道 (三重)

桜井 朝教 (長野)

清水 昭信 (愛媛)

事務局長

武藤 英明 (静岡)

次長

藤田 和彦 (山口)

庶務

平沢 祥秀 (京都)

本土 一真 (愛媛)

会計

石原 俊成 (愛知)

監事

天雨 隆成 (長崎)

星野 哲英 (新潟)

顧問

木南 広峰 (静岡)

総合企画委員長

村田 和彦 (京都)

二十周年特別委員長

時 準雄 (宮城)

事業委員長

高原 高尚 (広島)

研修委員長

鯨岡 宏智 (茨城)

組織委員長

岡本 大英 (福島)

広報委員長

甲斐 之彦 (大分)

△全国から参集された会員諸兄



△評議員会会での第十期執行部



全国曹洞宗青年会第九期を執行させて戴きました。第九期の執行を終了させて戴くにあたり先ず、会員諸兄の絶大なる御支援、御協力に対し、心より御礼申し上げます。

教化の原点に立ち返って

顧みれば、伊藤道宣第八期会長の下、広報委員長として執行部の末席にありました私は、「曹青通信」校正の為、各地から寄せられる原稿を何度も読み返す機会に恵まれました。そしてそこには何時も「原点はどこかな?」「本物はどれか?」という会員諸兄の探求があったように思います。また、十五周年記念誌「好堅樹」編集に当たり、過去の素晴らしい情熱と全曹青の重要性を感じ、先輩諸師が丹精込めて育てた感を深く致しました。熱意溢れる先輩諸師の姿

が脳裏に浮かび言葉もないまま圧倒されたことを、今でも強く覚えております。その全曹青を残学非才な自分が執行するとは、正に晴天の霹靂でありました。幸い素晴らしいスタッフに恵まれ、長いよう短い二年間を何とか乗り越えさせて戴きました。

わが全曹青の基本課題は「大衆教化の接点を求めて」であります。この布教、教化の原点に立ち返る意味からも、第九期は二年の時間をかけて「生きるための仏教・生きる支えとしての仏教」を前面に打ち出し、「仏事としての仏教法要」ではなく、「慶事としての仏教法要」に取り組んでまいりました。

花まつりキャンペーンを 長期的な視野で

具体的には第一には「花まつり

退任にあたり

第九期を振り返って

第九期全国曹洞宗青年会会長

木南 広峰



キャンペーンの実施でありました。キャンペーンを展開するにあたり種々の方法が議論され、様々な意見が出される中で、今回は日本生花商協会とタイアップして、ポスターとカードで実施致しましたことは周知の通りであります。この実施方法につきましては、アンケートにも見られますように賛否両論でありました。特にポスターとカードの図柄や大きさ、その内容等、また配付時期に関しまして種々の御意見を頂戴致しました。御意見が多かったという事はそれだけこのキャンペーンに対して関心が深かったということでありまして、役員一同感謝しております。

度度も申し上げますようにこのキャンペーンは、二十年三十年と続けて初めて答えの出でくるものでありましょう。会員諸兄の貴重な御意見をもとに、さらに議論を重ね「花まつり」が全国的行事になりますことを願うものであります。

誰かが最初の一步を踏まなければ、次の一步はないのであります。たとえ、その一步が微力であろうとも、歩み始めたことは事実であります。従来私共が行なっていた「花まつり」の多くは「自分達の中だけで」ではなかったでしょう。少なくとも全国規模で、宗門に無関係な企業を引き入れての「花まつり」は今回が初めてであろうと思います。その意味におきまして、微力な一歩ではありましたが、将来へつながら一歩であったと第九期役員一同自負しております。

四月八日、花束を送り、受け取る中で「なぜ四月八日が花まつりなのか・・・」いえ、「毎日が四月八日ではないだろうか・・・」と疑問が生じたとき、その意味を教えて下さい。そして歴代祖師の御教えを説いて下さい。全曹青はこれからの機会を造り続けたいです。会員諸兄は、十二分にこの機会を活用して下さい。

心と心の出会い、

それは仏との縁

スターは必要であるとし、会員諸兄にポスターの配付を行ないました。が、考えてみまするに過去に「仏前結婚」のポスターがなかったという点からすれば画期的な方法ではないでしょうか。

美しい心と心の出会い、それは深い縁(えにし)によるものです。そしてそれが大事な布教教化の場でありましょう。限られた一部の人々だけでなく、広く一般にも法悦を与え、これを機に縁を結ばせるように努めて行く。そのきっかけにこのポスターが役に立てば役員一同こんな幸せはありません。

全曹青九期はさらに、会則の一部見直し(特に会長選出方法において)講師一覧パートIIの作成、全国ソフトボール大会開催、未加盟団体の加入、新会員リストの作成、曹青通信の発行、禅文化学林の実施、と役員一同精一杯努力して参りました。非力ではありましたが、その努力が明日に繋がる努力であったと思っております。

全曹青は今、二十周年に向けて歩み始めました。第九期に戴きました御協力、御理解を全曹青第十期吉川新執行部に重ねて頂戴致します様、衷心よりお願い申し上げます。退任の挨拶に代えさせて戴きます。

「慶事としての仏教法要」の具休策としての第二は「仏前結婚のすすめ」でありました。「花まつり」同様その方法等につきましても熱き議論が交わされましたが、予算の関係もあり、今回はアンケートを実施し、先ず実質的な運動を繰り広げるための現況把握を致しました。その結果会員諸兄より貴重な御意見を戴き、今後の参考にさせて戴きました。

一人でも多くの人々に「仏前結婚式」を知って戴くためにも、ポ

総会開催後1ヵ月たった6月16日第2ソートビル3階会議場で事務局会を行ないました。

10期での運営方針、各委員会の取り組み、「花まつりキャンペーン」、「20周年記念行事」等の事業について、朝9時から夕方4時まで7時間におよび話し合われました。

いたずらに時間を費やしてもいけないが、新執行部、親和力を高める上でも多く話込みを行なっていきたいと思えます。

左より、吉川会長・清水副会長・武藤事務局長
時20周年特別委員長・鯨岡研修委員長



お知らせ

会則の細則第3号付則1から4は同付則4の条項により第10期発足と共に抹消致しました。

初めての広報分からない事ばかりで冷や汗をかきどうしです。まずは1号目を

皆様にお届け出来てホッとしております。

今後は精一杯精進して参りますので、皆様方のご支援ご協力のほどお願い申し上げます。

広報委員長 甲斐之彦 九拜

このコーナーでは多方面にわたって色々な情報を載せていきたいと思っております。皆様からのお便りをお待ちしております。手紙・はがき・FAX・フロッピー何でも結構です。情報交換の場、プラットフォームとなれば幸いです。

FAX (0979-32-7283) は24時間いつでも結構です。



九州大会での吉川会長と高原事業委員長

九州曹青管区大会開催

宮崎曹青10周年記念大会

本尊上供、導師宮崎会長甲斐史郎師



全曹青より吉川会長他役員4名参加

6月11日(金)、本年度で23回目を迎える九州曹洞宗青年会管区大会が宮崎県宮崎市のホテルを会場にして開催されました。

全曹青から会長をはじめ事務局長、同次長、事業委員長、広報委員長の5名が参加しました。今大会での審議の結果、九州曹青第6期会長に佐賀県吉田興禅師が選任され、新会長より執行部が紹介されました。管区大会の後、「宮崎曹青10周年」にも当り記念式典が行われました。また10周年記念講演として「新宗教の問題性と青年宗教者の課題」という演題で、日本基督教団若松教会志村真牧師の講演が行われました。

各式典・行事とも、多くの会員の参加により盛会裏に円成されました。

九州曹青では前期村上会長より「とっばらい」を合言葉に県境を越えた活動が展開されています。これは全曹青吉川会長の「参加型集団」としての曹青会と共通するものと言えます。

(詳しくは宗報掲載曹青通信号外をご覧ください)

義援御礼

長崎県曹洞宗青年会の「雲仙普賢岳噴火災害」に対しましての義援金募集の呼び掛けに際しまして、全曹青、各管区単位曹青並びに全国御寺院様より、多大なる御支援御協力を頂戴致しました事、深く感謝致し、御礼申し上げます。

下記の通り、関係各所に義援金として届けさせて戴きました。誠に有難う存じました。

本来ならば御芳名を上げさせて戴きます所、紙面の都合上略させて戴きます事、お許し下さい。

なを、今だ噴火終息の兆しなく、新たな被害も生じて来て居ります。引き続きましての皆様への暖かい御援助、御支援をお願い申し上げます。

第九期全曹青九州理事
天雨隆成九拝



△総会にて報告する天雨九州理事

雲仙・普賢岳噴火災害義援金報告

一、義援金総金額

- 平成三年六月二十七日 (自) 平成三年七月十一日 (至) 平成五年三月三十一日 四十件合計 総合計 金二百七十八万六百元 金二百八十八万三千六百元

二、義援金内訳

- 平成三年七月一日 長崎新聞者見舞金受付 金十万三千元
- 平成三年八月二十六日 長崎新聞者見舞金受付 金六万円
- 平成三年十一月二十日 島原市災害対策本部 金七十六万七千八百八十八円
- 深江町災害対策本部 金七十六万七千八百八十八円
- 平成四年五月二十九日 島原市災害対策本部 金五十一万二千百十八円
- 深江町災害対策本部 金五十一万二千百十九円
- 平成五年四月十一日 長崎県災害対策本部 金十六万五百八十七円

平成五年四月十二日現在
長崎県曹洞宗青年会
会長福田光昭
会計鉄山弘和

義援金送付先
千八五九一二二
長崎県南高来郡布津町乙九九四
円通寺内
長崎県曹洞宗青年会 宛
TEL 〇九五七(七二)六〇九六
(七二)五八八四

平成5年度全国曹洞宗青年会事業計画(案)

	事務局	総合企画委員会	事業委員会	研修委員会	組織委員会	広報委員会
平成5年 5月	11日事務局会・理事会 評議員会・総会 12日事務局会	11日委員会 12日 同 ・海文化学林 ・20周年事業について	11日委員会 12日 同 ・仏前結婚式 マニュアル作成について	11日委員会 11日海を聞く会 ・中央研修 12日委員会	11日委員会 12日 同 ・名簿変更等依頼	11日委員会 12日編集会議 ・原稿依頼 ・広告依頼
6月	事務局会	委員会 ・20周年事業について	委員会 ・各地大会補助	委員会	委員会 ・名簿整理	曹青通信発行 ・購読名簿整理
7月	事務局会 選考委員会発足	委員会 ・出版について	委員会 ・仏前結婚式	委員会 ・花まつりキャンペーン について	委員会 ・未加盟団体対策	委員会 ・通信内容検討
8月						曹青通信発行
9月	事務局会	委員会 ・海文化学林について	委員会 ・海の集い纏め	委員会 ・花まつりキャンペーン について	委員会 ・会費納入の確認	編集会議 委員会
10月	事務局会	委員会	委員会	委員会	委員会	曹青通信発行
11月	事務局会 選考委員会	委員会	委員会 ・各地大会の纏め	委員会 ・出版について	委員会 ・加盟団体の確認	編集会議 ・原稿依頼
12月						曹青通信発行
平成6年 1月	事務局会 選考委員会	委員会 ・20周年事業について	委員会 ・マニュアル作成印刷	委員会 ・ポスター等の印刷	委員会 ・会費未納への請求	編集会議 委員会
2月						曹青通信発行
3月	評議員会			花まつりキャンペーン 実施		編集会議
4月	事務局会	委員会	委員会	委員会	委員会	曹青通信発行

平成4年度全国曹洞宗青年会決算書

平成5年度全国曹洞宗青年会予算

Table with columns: 科目, 項目, 決算額, 予算額, 決算-予算, 備考. Section: 収入の部. Period: 平成4年4月1日~平成5年3月31日.

Table with columns: 科目, 項目, 決算額, 予算額, 決算-予算, 備考. Section: 支出の部.

収入合計 30,790,762 - 支出合計 30,780,141 = 10,621 (次年度繰越金)

平成4年度事業報告

Table with columns: 年, 月, 内容. Summary of activities from May 1993 to April 1995.

Table with columns: 科目, 項目, 金額, 前年度予算額, 備考. Section: 収入の部. Period: 平成5年4月1日~平成6年3月31日.

Table with columns: 科目, 項目, 金額, 前年度予算額, 備考. Section: 支出の部.

収入合計22,100,000 - 支出合計 22,100,000 = 0

平成5年度花祭りキャンペーン特別会計

Table with columns: 臨時部助成, 金額, 花祭りキャンペーン事業, 金額. Summary of special account activities.

